

講師からのメッセージ

「前立腺がんの流行実態とその予防対策」

前立腺がんの罹患率は四半世紀の間に約5倍も増加しており、日本の男性では胃がん、大腸がん、肺がんに次いで第4位となった。国際的に比較すると前立腺がんは欧米型のがんで、特に米国の黒人や白人では現在でも日本人の約10倍、5倍も罹患率が高い。一方、潜在している日本人の前立腺がんの率は米国の黒人や白人と大きく変わらないと言われている。そのことは、臨床的ながんの発生に日本人では抑制がかかっており、近年になってその抑制が外れて増加しつつあるとも考えられる。本講演では、日本で急増している前立腺がんの実態について説明し、その予防方法についても言及する。

研究所 所長 田島 和雄

「前立腺がんの治療：外科的治療を中心に」

局所前立腺がん（転移のないがん）の根治療法には、外科的治療（手術）と放射線治療があります。従来は、外科的治療が中心でした。近年、放射線治療の機器の進歩と普及により放射線治療の割合が多くなり、外科的治療の対象は限局がん（早期がん）が中心となっています。PSA 検診から、前立腺がんの確定診断、臨床病期の決定までの過程と治療法について説明します。また、当院で行った外科的治療の治療成績を含め、外科的治療の実際や合併症も合わせてお話しします。

泌尿器科部 部長 林 宣男

「前立腺癌の放射線治療の進歩」

前立腺癌は日本が高齢化社会になり発生が増加し、PSA 健診で見つかる機会も増えています。高精度な放射線治療の発展に伴い、前立腺癌へ放射線治療を行うケースが増えています。強度変調放射線治療と呼ばれる高精度放射線治療が2008年から保険診療で治療可能になりましたが、まだどの病院でもこの治療を受けられないのが現状です。当院はトモセラピーという専用機で300人以上の患者さんに治療してきました。当院の治療経験などから最近の高精度放射線治療の進歩についてご紹介させていただきます。

放射線治療部 部長 古平 毅